

ヨハネの黙示録 第2章 10節

「あなたが受けようとしている苦しみを恐れてはいけない。見よ。悪魔はあなたがたをためすために、あなたがたのうちのある人たちを牢に投げ入れようとしている。あなたがたは十日の間苦しみを受ける。死に至るまで忠実でありなさい。そうすれば、わたしはあなたにいのちの冠を与えます。」

聖書の最後に編纂された書にあることばです。著者ヨハネが90歳代になるころのことばともいわれます。長い生涯を通してネロの迫害をはじめとし多難な時代を自分自身の身をもって体験し、倒れず歩み貫いた証言のことばといえます。そして、最晩年となりパトモス島に流刑となり、そこで示された幻を記しています。ヨハネ自身が苦しみの真ただ中にありながら記したことばです。その結論は、「死に至るまで忠実でありなさい。」

全生涯を通して確信したことは「死に至るまで忠実でありなさい。」ということです。どのような苦境にあっても、さらには生死の境を行くときがあっても、そしてあえて言うならば、「死に至るまで」でもと終わりまでの歩みを定めています。死に至るまで忠実に生きられる対象があるのは幸いなことです。常に忠実なる主イエス・キリストに導かれ、忠実な者として養われている者の幸いです。忠実な者への祝福はいのちの冠となります。